



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



駐日教皇大使の来鹿など報告

12月8日(日)に教皇大使歓迎ミサ

司祭評議会など三つの会議で

九月十六日(月)から十七日(火)にかけて、司祭評議会、教区司祭会、定例司祭集会と三つの司祭会議が教区本部で開催された。会議の席で報告されたのはジョゼフ・チエノット駐日教皇大使(七十歳)が十二月に鹿児島教区を訪問することだった。これは鹿児島教区に対する司牧訪問で、併せて創立八十周年を記念する鹿児島純心女子学園の記念式典出席のため、教区では純心学園と協力し、大使を迎えるための委員会を設置し、十二月八日(日)午前十一時からザビエル教会で大使とささげるミサや歓迎会の準備にあたっている。

また会議では九月十五日(日)ザビエル教会であった教区フェスタと夏休みの子ども大会の総括を行った。教区フェスタについて

は担当の寝占敦之神父が特に司教座献堂ミサに触れ「各教会の願いと祈りが共同祈願の中で教区全体の願いとしてささげられたこと意義は大きい」と報告した。また子ども大会については担当の泉浩二神父から「マリア山荘での開催だったが、今後人数が増えることを期待すると開催場所の検討の必要性も生まれるとの指摘があった。その上で、泉神父は「来年以降も継続

していききたい。司祭たちの子どもたちへの声かけが大切」と司祭たちに関心を持って欲しいと訴えた。また司教も特に子ども大会に触れて「十年先の教会のことを考えると子ども大会はぜひ継続して欲しい」と付け加えた。十七日の定例司祭集会の最後には、二十二日(日)の福音の分かち合いが行われ、司祭たちはみことばを胸に各教会に帰った。(報告・寝占敦之)

来年度以降の復興支援担当者会議

東日本大震災復興支援担当者会議

九月四日(水)から五日にかけて十一回目となる「長崎教会管区東日本大震災復興支援担当者会議」が岩手県上閉伊郡大槌町で開催された。今回の会場となったのは新ベースになる大

教区フェスタ終わる

九月十五日(日)ザビエル教会で「教区フェスタ」として司教座献堂記念ミサがささげられ、その後昼食時間に信徒たちが交流のひとときを持った。教区フェスタは教区評議会と交代で一年おきに実施されている教区の大事な行事の一つ。今年の教区フェスタには、本土地区の教会を中



①整えられて行く新しいベース
②平賀、濱口両司教を囲んで

充実の信仰養成講座を終える

奄美大島地区教会

奄美大島地区宣教・司牧を考える会主催「カトリック信仰養成講座」信仰を見つめ直そう。第二回は、名瀬聖心教会聖堂で開催されました。春に行われた第一回、二回に続き、今回は八月二十六日(月)午後九時三十分(土)午前の部まで、昼夜それぞれ五日間の集中講座でした。講師は、前回に引き続き

紫原教会主任司祭で鹿児島純心大学教授でもある竹山昭神父です。テキストは「カトリックの信仰」(鹿児島教区司祭評議会編 改訂第六刷)で、前回残した第四章「秘跡」と第五章「完成の日に向かって」について学びました。

今年の大島地区の夏は、例年になく猛暑が続き、講師の竹山神父は勿論のこと、



と、大学生の様には若くなく、受講者たちにとっても、

五日間の集中講座はチャレンジの時となりました。旅する教会と共に歩みを進める私たち信者に、必要な力として与えられる「秘跡」を通して、「完成の日に向かって」私たち信者が抱き続けることのできる「希望」に對しても、常に神様の愛が注がれていることを、竹山神父のお話から感じ得ました。そして、私たちは神様の愛にどう応えるか、と。

毎回百人を超える受講者の熱心に耳を傾ける姿が

ら、その一つのこたえが感じられたかの様でした。竹山神父による講座は、計十五日間、二十三時間に及び、今回をもって終了しました。この貴重な学びを今後更に発展させ、活かすことが求められます。

奄美大島地区宣教・司牧を考える会では、四つの委員会が手を携えて、これからは様々な提案・実践をしていきます。

「短信」

▼夏期集中講座

第二十二回夏期集中講座(講師・竹山昭神父)が、八月十九日(月)から二十三日(金)までザビエル教会で開かれ、約九十人の信徒、修道者が「カトリックの信仰」について熱心に学習した。

▼聖心教会で堅信式

九月八日(日)奄美市の名瀬聖心教会(永山幸弘神

教区人事

▼寝占敦之神父(教区本部)は、九月二十二日付けで玉里教会管理者

▼丸野六雄神父(玉里教会主任)は、司祭の家



父)では、郡山司教を招き堅信式が行われた。

この日、堅信の秘跡を受けたのは子ども七人と大人八人の十五人。ミサ後は隣接する名瀬カトリックセンター三階で茶話会があったほか、同教会司牧評議会のメンバーと司教の初の懇親会も開かれた。

敦之「被災地便り」秋風がとても心地よい季節になりました。仮設住宅での生活が二年半近くになつてきた被災者の皆さんが待ち望んでいた災害公営住宅が一部の地区で完成し九月初めに入居の運びとなりました。また別の地区でも三棟百五十一戸が来年度中に建設される予定です。

岩手県では復興ロードマップで水門、防潮堤、漁港、公共施設の再建や区画整理などについて年度別スケジュールを発表しました。まだまだ大変な現状ですが、力強い歩みを感じられています。(報告・川口茂)

北薩カトリック大会での体験発表② 病を通して培われたもの

川内教会 永田悦子

洗礼を受けて四年目のまだ未熟者です。でも私の罪が許され、平安が与えられ、そして病が癒された体験を通して、今喜びに満ちているという体験を聞いて下さい。

ガンの告知を通して、神と共に私の内において、ずっと以前から私が助けを求め願ひ出るのを今か今かと待たせておられたことに気づきました。この気づきが私の生き方をガラリと変えて下さったのです。今、この病は神が私に与えて下さった賜物と感謝しています。聖書にある「神は生きて一人ひとりのうちにおられ、愛し、罪人を救うため、病を癒すため、平和を与えるためにこの世に来た」というこの言葉が本当であったと確信しています。

二〇〇九年の四月のことでした。神戸の六甲教会で急に「洗礼を受けなければ」と胸騒ぎがし、洗礼を授かりました。しかし当時

の私はミサには二か月に一度程度、聖書を開いたこともなく「神」「主」「イエス・キリスト」「マリア」などの言葉を耳にはしませんでした。おまけに知人もいなくて、教会通いも負担でした。そうして一年が過ぎた二〇〇五年五月末、体調を崩して病院へ行つたところ「多発性骨髄腫」というガンの宣告を受けました。この血液が骨を砕いて骨粗しょう症となつていくという病は、完治不能で、助かる道は抗がん剤投与と進行を遅らせるだけのことです。その場で死の宣告を受けたように感じました。他の病院でも診察しましたが答えは同じでした。

懸命に働き、職場に尽くし、喜ばれていたと思つていた私でしたから「どうして私が」と慌てて、助かる道を探そうと本を買いました。民間療法、温泉と試みたりもしました。そして

隠しておいたため何の儲けを得ることができませんでした。では、もし、この僕がお金を増やそうとして商売をしたもの、それが失敗に終わりお金が減つてしまつたとしたら主人はどのような態度を取るでしょうか。おそらく主人はこの僕を追い出すことはしなかつたでしょう。このように考えると、主人はこの僕が何

すべての頼みの綱が切れ、途方に暮れ始めた頃、聖書の中に「神の癒し」があったことが頭をかすめ、助かる道は「鹿兒島のザビエル教会だ」という思いが湧き出て来たのです。そして姉の勧めもあつて急遽鹿兒島に帰つてきました。

二〇一〇年の十月中旬、血液がつかれないため手足は氷のように冷たくなつていた私は、ホツカイロを数個つけてザビエル教会で祈りをささげていました。「愛の泉」のとりなしの祈りとの出会いでした。その調は少しずつですが回復していき、そして祈りが一番の楽しみへと変わつて行きました。そしてそれは祈りからどんなに平安が与えられるかを知ることになりました。

そしてそこでのいろいろな人との出会いが、私を大きく変化させたのです。アメリカ人のシスターステファ

もしなかつたことを責めたのだと言えぬのです。確かに、私たちは時折、自分に才能や能力が足りないことを嘆いてしまうものです。しかし、もしそうで

ン、郡山司教からの不思議な癒しのハンカチ……。ローマ・イタリア・フランス・アシジの十八日間の巡礼、アイルランドの五カ国合同のとりなし二十日間の巡礼、韓国巡礼、ミオ・バラダの黙想会、宝塚の黙想会、尼崎の聖霊刷新大会、そして昨年十二月のローマ巡礼での教皇様との謁見などなど、この二年半あまりで目まぐるしく動き回り、そして神との出会いを体験しました。この病、愛の泉のとりなしの祈りのおかげで、普通では到底出合うことのできない貴重な事柄、人々と巡り会うことができたのです。そしてその出会い、発見の度に元気が戻つてきました。

これまでの出会いの中で頂いた素敵な言葉を二つ紹介したいと思います。

①あなたの病気は、神が与えた病、これまで何度も神が呼ばれていたのに、「仕事、仕事」とこたえずにいた。だから仕事から手を引かせるために、神はガンをという病を与えられた。この病の行く末は、あなたの神への信仰次第。

ご自分が与えられた力を十分に使つて生きることを私たちに望まれています。ならば、自分の才能の足りなさや、自分の才能の足りなさゆえに神様の御心に適つた生き方がしやすいくことを感謝すべきかもしれませぬ。だからこそ、力を尽くすことを忘れてはならないのです。「やればできる」とよく言われますが、何かをやつたからといって必ずできるわけではありませぬ。しかし、「やらなければできない」ということは確実に言えます。

文芸

短歌

鹿兒島純心 川上 和
よみがえる往時のザビエルそのままに名
残の森のシンボルとなり
出水教会 遠竹 睦郎

パウロてふ霊名つけて外つ国のドイツの
神父より洗礼受けぬ
敬老の祝福を受けて共に和す教会の宴いと
も楽しき
奄美市 林 常広

ぼつぼつと紅葉はえし奄美の森秋の風か
な吾れ涼しけり

俳句

鹿兒島市 徳永ノブ子

秋天に平和の鐘の響く街
夕立も恵みの雨となる日和
日射し落ち秋めく風の通り抜け
鹿兒島純心 川上 和

百日紅恩師の思い夕日に照る
出水教会 沖 弘子

秋の蝉鳴ひてクルスの庭澄めり
国分教会 政 ノブ子

私たちは神様からそれぞれに必要な才能を与えられています。そのことを信じて生きていくのか否かが問われているのです。ユダ王国が苦境に陥つたとき、預言者イザヤは王に「信じなければ、あなたがたは確かにされない」と進言しました（イザヤ7・9）。自分の才能や能力について悩むとき、このイザヤの言葉とタラントンのたとえを思い出し、自信をもって地味な努力を続けたいものです。



前に洗礼を受けて下さったのです。神は私に必要な時を一つひとつ、それもゆつくりゆつくり順序よく、ステップを踏ませて与えて下さつていたのであります。今、そのことに気づいて感謝しています。神の恵みには時があり、人間はそれを逃しては駄目なのです。事が起きてどんなに慌てても、自分でどうにかしよう、金で解決しようとしたところで、私たちは主のみ手の中にありますから、すべては神のみ業次第で、人間の力ではどうすることもできないと悟らされました。それは「神の業がこの人に現れたためである」（ヨハネ9）です。神の業によつてガンを通して、神は私に現れ、私の目を開かせて下さったのです。ですから今、神に感謝、ガンに感謝です。

ヨハネ十五の十六には「私があなた方を選んで」とあります。ガンという病の贈り物を頂き、黙想しながら神との出会いを得たことは、自分のプライド、優越感、自己満足、地位、金を得るためだけに目を向け、それが人生の目的であり幸福と思ひ込んでいた価値観がいかに空しく、それ

はサタンにどつぱり身を任せたいということに気づきました。まさに危機一髪の気づきとなりました。毎朝最初に「今日一日をすべて主に委ねます。僕として主のみ旨の通り、私を道具としてお使い下さい」と祈ります。すると聖霊が一日中一緒にいて下さるといふ安心感が満たされ平安で何の心配もなく、ただただ喜びに満ちた一日を過ごしている今の私です。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい」私が大好きな歌です。ありがとうございます。

お知らせ

▼かごしま県民大学・鹿兒島国際大学連携講座「教会音楽コンサート」日時・10月6日（日）14時 場所・霧島国際音楽ホール 入場料・一般二千円 学生千円
▼イエズス会・エルナンデス修道士のホリスティック講座「愛と許し」教誨師五十三年の経験から
日時・10月21日（月）10時 場所・ザビエル教会 受講料・五百円

一人でも多くの人に福音を

歴史の島屋久島で聖書講座始まる

種子島教会の巡回教会である屋久島教会では月に二度のミサがあります。十八世紀のキリスト教迫害下、シドゥッティ神父が上陸した場所とされる記念碑の近くに建てられた教会は、その背景となる海や林、そして周囲の畑と相俟って、少し物憂げな佇まいをしています。日曜日の夜七時から始まるミサのために聖堂の明かりが灯ると、県道から

少し離れたところに位置する小さな建物の中で、ささやかなお祝い事が行われているかのような雰囲気醸し出されます。

ハンマ神父の司祭叙階五十年を祝う 入来教会で大勢の信者たち

普段は四家族ほどの方々が来て下さる教会ですが、いつの日か私たちのお祝いであるミサに近隣の方々も集ってもらいたいものです。シドゥッティ神父様、そして彼の研究家であり、その志を継いで屋久島にいられたコンタリーニ神父様（着任一九八一〜一九九八年）の布教に対する熱い思いと業績が、今、この時代にこの地で実りを結ぶことを祈るばかりです。

今年の四月二十八日に司祭叙階五十年（金祝）を迎えたレデンプトル会のヨルダン・ハンマ神父の祝いが八月十七日（土）神父



さて、先達の思いに促されるかのように、屋久島で一般の方を対象とした聖書講座がシドゥッティ神父様を描いた『密行 最後の伴天連シドゥッティ』の著者として知られる古居智子さんのゲストハウスを借りて開かれています。コミュニティ「屋久島」の



か、との思いから始まりました。聖書についてある程度は知っている、また分かっているようでいて意外と誤解や偏見に満ちた理解が一般に流布していることもあり、こうした現実をもとに適宜に質問を受けながら進められる講座を通じて、参加者は「なるほど」「そうだったのか」と知的

好奇心が更に高められているようです。また、欧米の文学や芸術の背景ともなっている聖書についての理解と知識が参加してくださる方々のこれからの人生をより豊かにしてくれることでもしょう。この講座がこれからも続いていくようにお祈りください。（報告・鈴木康由神父）

会と催し（10月）

- 5日（土）デルクス神父命日（一九八〇年）
- ▼牧山田一神父叙階記念（一九六一年）
- ▼宣教学校・教区本部・10時
- 6日（日）年間第二十七主日
- 10日（木）福崎英雄神父叙階記念（一九八九年）
- 12日（土）アッシュヤー神父命日（聖マックス）
- 13日（日）年間第二十八主日
- 18日（金）聖ルカ福音記者
- 20日（日）年間第二十九主日
- ▼世界宣教の日（献金）
- 21日（月）レデンプトル会例会
- 25日（金）東研神父叙階記念（一九六四年）
- 27日（日）年間第三十主日
- ▼大松正弘神父命日（聖ジェラルド）
- 28日（月）聖シモン聖ユダ使徒
- 31日（木）ミタマヤ神父命日（一九八四年）

祈りの意向

【ノベナ】マリアの「なれかし」の信仰に倣い日々の祈りを大切にできるように（1日〜9日）

【祈祷の使徒会】一般・絶望のうちにいる人々

宣 教・世界宣教の日

日本の教会・諸宗教の尊厳

司教執務室便り

ロザリオの祈り

十月はロザリオの月と呼ばれますが、ロザリオについて調べているうちに、いくつかの興味深いことを知りました。ロザリオのお祈りは、マリア様のお告げで始まる喜びの神秘、ゲッセマネの園での主の受難で始まる苦しみと希望の神秘、そして主の復活で始まる栄光の神秘、この三つの神秘を黙想しながら、聖母マリアへの祈りを合計百五十回唱えるものです。普通は、一日に一つの神秘を唱えますが、三つの神秘を唱える人も珍しくありません。しかし、それがロザリオ本来の祈り方でした。ヨハネ・パウロ二世は、もう一つ、光の神秘を加えました。

黙想ができるようにと考案されたのが、三つの神秘に従って聖母マリアへの祈りを百五十回ささげるといいうやり方でした。ところで、十月七日（月）をロザリオの聖母の記念日と定めたのは聖ピオ五世（一五六六〜一五七二）一五七一年、オスマン・トルコの西進を阻むべく、スペイン王国をはじめカトリック連合艦隊が挑んだいわゆるレパントの戦いで大勝したのが十月七日。それは、熱心にささげられたロザリオのお祈りによるものだと、ロザリオの信心を広めたドミニコ会士でもあった教皇ピオ五世がこの日を聖母にささげ、ロザリオの聖母の記念日とした、ということのようです。

一方、当時の教会は、宗教改革後、次々と起った異端との戦いにもさらされてきました。そんな状況下で、伝統信仰を守るために教会は必死に祈ったことがうかがえます。

別の戦いを強いられる今日の私たちも、そんな歴史の刻まれたロザリオをいつも身に付けて、折に触れ、聖母のみ名を口に、祈り続ける日々であるよう祈ります。



+KABAYAN SEKSIYON+

Diyos Ating Mahabaging Ama

Batid sa buong daigdig ang parabola ni Hesus sa isang ama at sa kanyang dalawang anak na lalaki (Lc 15:11-32). Isa itong madulang pagpapahayag ng magiliw na pagkahabag ng Diyos sa kanyang mga anak—para sa atin! Ang kuwento ng “alibughang anak” ay karaniwang tinatawag na parabola ng “mahabaging ama.” Sa kamangha-manghang paraan, ipinapahayag sa kuwento ang isang batayang elemento ng pananampalatayang Kristiyano: ang habag ng Diyos ang sumasalamain sa kanyang tunay na kalikasan.

Nilustay ng alibughang anak ang higit pa sa kayamanang materyal; binalewala niya ang mismong dignidad niya bilang anak sa tahanan ng kanyang ama. Ngunit nanatiling matapat ang Ama sa pag-ibig at pagmamahal niya para sa kanyang suwail ngunit nagsising anak.

Ipinapakita ng parabola sa bawat tao na maaabot ng habag ng Diyos ang bawat suwail na anak. Ang pagkilos ng Diyos ay hindi nanghamak sa taong nagkamali; ibinabalik ng kanyang awa ang tao sa kanyang tunay na halaga—bilang isang minamahal na anak ng Diyos.

Ang pagkahabag ng Diyos ay inilahad sa makabagbag-damdaming parabolang ito. Inihahayag ng pananampalatayang Kristiyano ang mapagpatawad na habag ng Diyos—mahusay na ipinapakita sa parabolang ito sa paraang hindi magagawa ng karaniwang pagpapahayag ng doktrina!

Tayong lahat din ay may karanasan ng pagiging “alibughang anak”, na kung saan ay hindi natin nakikita at nararanasan ang dakilang habag at awa ng ating Amang nasa Langit na ipinakilala ni Hesus. Kaya iniaanyayahan tayong lahat na kung ano man ang nagawa natin pagkukulang o pagkakasala ay huwag tayong matakot na magbalik loob sa Diyos Ama ng buong kababaang loob na magsisi sa ating pagkakamali.

Katesismo sa Taon ng Pananampalataya

訃報

ルイス・レデスマ神父

二〇〇四年四月から二年間、長崎純心聖母会のチャプレンとして、また鴨池教会協力司祭として働いたイエズス会のルイス・レデスマ神父が、九月七日（土）心臓弁膜症のため帰天した。八十八歳だった。

キリシタンの歴史⑬ 朝鮮のキリシタン史(1)

溝辺教会主任司祭 坂本 進

1 未来宣教司牧研究所と車神父

九月初旬、車神父さまと未来宣教司牧研究所を訪ねて訪韓しました。車神父さまは十数年前に韓国のカトリック教会が停滞に陥った時、その危機を打開するために未来宣教司牧という方向性を打ち出され、韓国のカトリック教会を起死回生の道を進みます。車神父さまは、未来宣教司牧の発想は、キリスト教会・神学校のみなならず、サムソン、現代などの巨大企業が講師として車神父さまを招聘したり、大統領の顧問として車神父さまが政府からの要請を受けるほど必要とされています(鹿児島教区の司祭黙想会にも、来ていただきました)。サムソンには、「未来戦略研究所」も設置されているのです。車神父さまは、未来宣教の軸として韓国・日本・韓国のカトリック教会の連携を置かれています。



수리산서기

「西学」としての「天主教学」は、知るといふ知識によつてだけでは窮めえることができず宗教として信仰しなければ、窮めえないと悟るに至ったのです。李承薫(一七五六〜一八〇二)が北京に赴き、フランス人宣教師ジャン神父(イエズス会)によつて一七八四年、洗礼を受けたところから韓国における本格的なカトリックの歴史が開かれました。

北京で洗礼を受けて戻ってきた李承薫によつて洗礼を受ける者は続出しつづきました。しかし、秘跡を行う神父は不在のままであったのです。聖職者が存在しない時代がしばらく続きましたが、一八三七年、朝鮮教区が北京教区から独立し、パリ外国宣教会のピエール神父が来朝。一八三八年時点で朝鮮の信者数は、約九千人に達していたのです(浅見雅一・安廷苑『韓国とキリスト教』二〇一二年刊 五頁)。

現在の韓国におけるキリスト教人口は、カトリック五三〇万以上、全人口五千万に對する比率は、十二%を数えています。プロテスタントはその二倍とされています。韓国人の三人に一人はクリスチャンということになりまね。

3 韓国のキリスト教の特徴

韓国のキリスト教の特徴は、次の四点にあります。①天主教から出発した。②外国人宣教師による布教ではなく、韓国人の自発的撰

2 韓国のキリスト教は、カトリックの歴史から始まっています。韓国のキリスト教の歴史は、中国や日本のように外国宣教師から伝えられたのではなく、韓国人がカトリックの教えを「朝鮮西学」、即ち、儒学をより深めるための学問として摂取しようとしたところから、始まりました。そして、

ていったのです。ところが、その指導的立場に立つ人々が、西学としての天主教は、知識ではなく宗教であることとを認識し、天主教に改宗する人々が増えていくようになったのです。はじめカトリック教理書であった『天主教義』の教えに従い、仲間内で、洗礼を授けたり、告白を聞き合ひ、許し合ひたりしていたのですが、秘跡は神父がいなないと挙行できないことを知り、神父の招聘に力を尽くすようになっていきました。

取によつて布教が始められていった。③知識人階級(士大夫)から出発した。④学問、文書を通じて伝播されていった。西洋学問として摂取されていった天主教は、マテオ・リッチ(一五五二〜一六一〇)著の『天主教義』(一六〇三年初版)を北京から取り寄せ、学んでいくところから始められていきました。知識人で武士階級の人々(両班)の間で儒学を深めるために、学ばれ

九州青年キャンプに参加して

谷山教会 岩崎 信幸

八月二十四日(土)〜二十五日(日)長崎で九州青年キャンプが行われまし

た。九州青年キャンプとは、九州の各教区から青年が集まり、互いに交流を深めるもので、今年約百人が参加しました。今年のテーマは「道―あなたのむねわたしのむねとおなじ」でした。これは、一八六五年に大浦天主堂で起きた「信徒発見」に因み共に神への道を行っていきましょうという気持ちを表わしたもので、私は初めて九州青年キャンプに参加しましたが、この出会いは、これからの

祖先祭祀を廃し位牌を燃やしてしまふという事件が起きました。政府はこれを伝統・体制に対する反逆として兩名を処刑、西学書を焼却させるに至らせたのです。これが、キリシタン迫害百年の始まりでありました。このあたりの消息については、韓国キリシタンの創世を描いた韓国ドラマ『正祖大王』(一九八九年制作。イ・ピョンフン監督。原題『破門』)に詳しく描かれていきます。私も鑑賞し、認識を新たにしました。

4 殉教者・司祭アンドレア金大建と今日の韓国カトリック教会

九月二十日は韓国百三殉教者の記念日ですが、この殉教者のはじめに挙げられているアンドレア金大建は(一八二一〜四六)は、一八四五年に、韓国人として

はじめて司祭に叙階された人です。一八四六年に殉教されています。金大建が遭遇したこの迫害は丙午教難と言われよく知られていますが、韓国の殉教記念館でもある殉教記念地・切頭山には、金大建の銅像が建てられています。ソウル・カトリック大学の神学院の前にも銅像が建てられています。現在、ソウル教区の神学院には、二百九十八人の神学生がいて、養成担当の朴教授が教えてくださいます。神学生の外出は、養成期間中、日曜に限られ、かつ門限は五時半とのことでした。もちろん、宿泊は禁止されています。教会の教えをきちんと学ぶための勉強が厳しく課せられ、霊的生活の鍛錬が規則正しく行われ、司祭(目上)への尊敬も厳しく躰られていたように思います。韓国の各教会には、必ずレジオ・マリエがあり、その活動はとても活発です。祈り合いも一時間かけて祈り合います。信徒養成のためクルシリオも盛んで

す。日本でクルシリオは四十年前まで盛んでしたが、今はほとんどありません。日本の教会ではなく、今も韓国には、韓国の教会には、今も韓国に、しかもとても活発なのはなぜでしょうか? 韓国のカトリック教会が急成長していった原因、それは、一九七〇〜八〇年代における韓国の民主化の動きに際して、カトリック教会が「信仰の証」を実践していたことが挙げられています。このことにご存じでしょうか。このことについて、次回、詳しくご紹介していきます。私、今の日本の教会にとつて、韓国のカトリック教会から、学ぶものが沢山ある、いや、日本のカトリック教会は、韓国のカトリック教会を模範として、学び直していくべきではないかと思つてます。みなさまはどう思つておられるでしょうか。(続)

カトリック通信講座 <全7講座>

- T001 キリスト教とは=キリスト教の概要をやさしく説明
- T002 聖書入門 [I]=四福音書を通してイエスの生涯をたどる
- T003 キリスト教入門=秘跡や信仰生活など。受洗準備にも
- T004 神・発見の手引=人生、自然などを通して神に気付く
- T005 聖書入門 [II]=使徒言行録、書簡集、黙示録を扱う
- T006 幸せな結婚=結婚の意味や愛、幸福などについて
- T007 生きること・死ぬこと=産むこと、老いること、旅立つことに寄りそうケア、いのちに関する問題を考察する

受講料：T001〜T004 4500円 T005〜T007 5000円

<お申込み方法>

郵便局に備え付けの振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001〜T007)をご記入の上、受講料を下記にお振込み下さい。振替口座番号：00170-2-84745 加入者名：オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ・お申し込み>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL: 03 (3322) 7601 FAX: 03 (3325) 5322

お詫びと訂正

教区報九月号で喜界島の堅信式の日にちを八月十一日と掲載しましたが、正しくは八月十八日でした。お詫びし訂正いたします。 広報部